

法に改良すべきもの少からず。併も此の如き弊風の改良は宜しく先づ其第一着手たらざるべからず。

教育家の理想

前田長太

美術家に取りて其最も大切なのは理想である、理想なき美術家の作品、若くは理想低き美術家の作品は實に見るに足らざるものである、一幅の畫宛として聲あるが如く、一魂の石宛然生命あるに似たるは、美術家が其腦裡の高崇なる理想を顯表するが爲に苦心經營せる結果なる事は人の普く稔知する所である。

教育家も亦是れ一種の美術家である、否教育は術中の術と云へば、教育家は美術家の最も大なる

者と言つて宜しい、其の托せられある兒童は、取りも直さず是れ其の理想を顯表する有聲の畫、有生命の石である、其の技量を發揮する作品と言つても差支ない、勿論貴重なる作品と言はなければならぬ、有心の人間、萬物の靈長であるから……然し既に惡癖邪習のあるときには、教育家の最も苦心經營を要する所である故、中々困難なる作品と云はなければならぬ、之に理想を吹込んで、眞個萬物の靈長たるに耻ぢぬ人物とするは、正しく是れ教育家の技量の存する所である。

去れば教育家に取りて必須缺く可からざるものも、亦是れ理想である、始終理想を腦裡に浮べ、理想を眼前に立て、如何にせば此の理想を兒童の上に實行し得べきやと云ふ事は、其の一生の天職である、理想なき教育家、若くは理想賤き教育家

は寧ろ其の寄托せられたる兒童を毒害する者である故、世の父兄たる者は最も茲に注意着眼しなければならぬ。

然らば則ち教育家の理想とすべき所は何であるか？ 俸給を受け、バンの爲に働き、顯要の位置に立たんと欲し、老後の備を爲さんと欲す、是れ其の理想であらうか、否、斷して否、勿論此は罪すべき事ではない、人生衣食なき能はず、兒孫あれば之が計を爲さるべからず、然し之のみを目的とし、之れ以外に一念の高崇なる道義天職に想するなくんば、吾は之を利己的教育家、衣食住の爲に働ける教員と絶叫するに憚らない、教育家の天職や貴し、此の如き者は教育の罪人と謂つても、敢て矯激の言ではない。

教育家は人間を預つて居る、否切言せば、未來

の國民を預つて居る者である、故に國家の教育家に期待する所大なるが如く、教育家の國家に對する責務も亦甚だ重い、國家は教育家に心身健康、識徳兼脩の人物の提供を要求して居る、忠良の民愛國の士、亦皆之を教育家に期待して居る、是故に教育家の理想とすべき所は、己れ一身の計ではなく、國家百年の計である事は如上の言によりて自ら打算せらるゝ所である。

若夫れ此の理想を實行するに當りては、教育家たる者其の學校に入る毎に『我は國民の準備者である、我は人物の養成者である、忠良の民を作り愛國の士を供す、一に我が双肩に懸つて居る』と云ふ言を以て自語自警しなければならぬ、去すれば兒童の体育、知育、徳育を行ふ際に生起する百の困苦艱難は容易く恐ばれ、事業の單調なるも、

俸給の微薄なるも、兒童の忘恩なるも、毫も心を亂し、志を動すに足らず、我は唯だ天職を竭せば足る、國家に報ふれば足る、義務を遂行したる時の愉快、即是我が報酬であると云ふやうなる此の如き者を稱して眞正の教育家とは謂ふなり。

嗚呼世の教育家よ、須らく自重せよ、彼の畫工石工は巧と雖、紙と石の上に働く者のみ、卿等は人靈の上に働く者なり、父や母や尊しと雖、唯其の一家族を養成する者のみ、卿等は一國民を教育する者なり、ヨリ大なる、ヨリ功勞多き天職何くにか在る。

(完結)

松本文學博士の「ニエーイグランドの一家庭」は續載すべかりし筈の處、完結までには殆んど尙七八回を要し、且つ本回よりは談、博士の寄留さられし一人の家庭に及ぶ事なればさて一先づ、前回にて完結せし、讀者之を諒せよ、



寄書

大に女子の反省を求む

香川縣 大西永太郎

我國女子教育のことは既に十數年以前より大に有識者の間に唱道せられつつあつたが、今や女子も男子と同様に智徳並行の必要ありとて、歐米各國の制を參酌し何れの縣でも高等女學校の設立のない處がない、其上女子職業的の學校も續々設立を見るのみならず、女子大學まで説けられたのは實に社會一般が女子教育の必要を實際に感じて來た結果に外ならぬのであるから、誠に我國女子のため否我國文明のため慶すべきことである。思ふ